

鳥獣被害対策の取組み

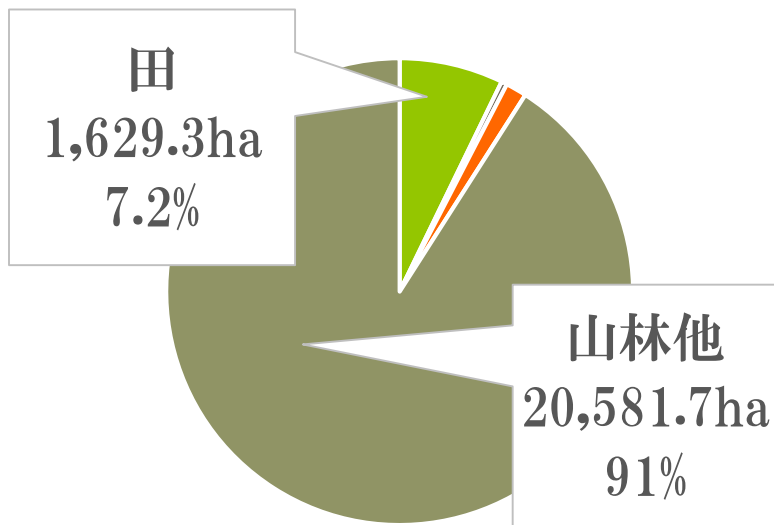
～鳥獣に強い安心な町づくりを目指して～



朝日町有害鳥獣対策協議会

（富山県）

朝日町の概要



朝日町の特産品



鳥獣による農作物被害の歴史

昭和50(1975)年代～

ニホンザルにより自家畑の作物が荒らされる。
猟友会にお願いし、加害個体の捕獲を始める。

昭和60(1985)年代～

ニホンザルに加え、カラスによる田植え後の苗の踏み荒らしが散見されるようになる。猟友会にお願いし、カラス捕獲を開始する。

平成18(2006)年頃～

イノシシによる掘り起し、水田内の踏み倒しが発生するようになる。
猟友会にお願いし、捕獲を開始する。

※その他、ドングリのなりが悪い年にはクマの出没も多く、過去には人身被害が出たこともあった。

※鳥獣被害対策は個体数調整がメインであり、その大部分を猟友会による銃での捕獲に頼っていた。

鳥獣被害対策に対するそれぞれの思い

住民（農家）の思い

- ・ 猟友会は鳥獣を撃ちたい集団だろう。
- ・ 有害鳥獣の捕獲は猟友会が行うもの。
- ・ 町（行政）は田んぼや畑に出てきた鳥獣の対策を行うのが当たり前
- ・ 猟友会と行政が田んぼや畑を守ってくれるのが当たり前だから、我々は田んぼや畑を作っているだけでよい。

猟友会の思い

- ・ 猟友会は狩猟を楽しむ団体であって、有害鳥獣対策のために個人の経費をかけて銃を所持しているわけではない。
- ・ もちろん、町（行政）の機関じゃない。
- ・ 地元の住民が農作物被害で困っているというから協力している。
- ・ 現場に到着しても「遅い！」と怒鳴られ、嫌な気分になる

住民（農家）の意識改革

「自分たちの農地は自分たちで守ろう！」を原則として、自治振興会や各町内会、生産組合長さんの会合等の場で説明会を開催してきました。

町からの質問	住民（農家）さんの答え
Q サルやイノシシに作物を荒らされて悔しくないですか？	A 悔しい。町や <u>猟友会が何もしてくれないから</u> いいようにやられている。
Q 作物が収穫できたら、どうされるんですか？	A 売るか、食べるかに決まっている。
Q 町はいいですけど、猟友会さんに何か渡してますか？	A . . . （渡してない）
Q 農地の対策やってみませんか？	A そんな大がかりなことはできない
Q ひとりじゃなくて、みんなでやるんですよ。	A じゃあ、やってみるか

山沿い全6地区に協議会が発足

山崎地区有害鳥
獣対策協議会

朝日町有害鳥獣対策協議会の設立



朝日町有害鳥獣対策協議会

鳥獣被害対策の方法や課題について
地区有害鳥獣対策協議会と話し合い。

自分たちでもできる鳥獣被害対策に
ついて紹介することで、地域住民の
やる気に火がついた。

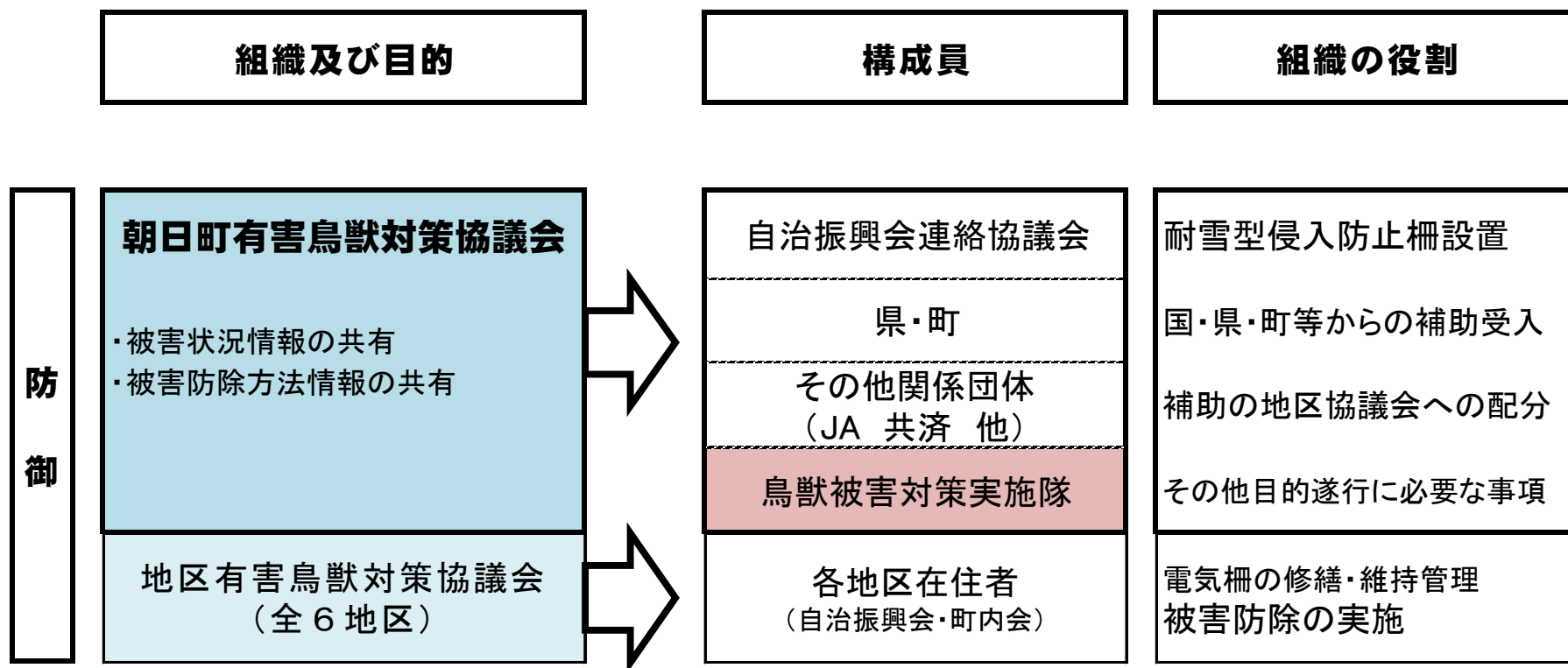
先進地視察

鳥獣から農地を守る方法を勉強。

防御と個体数調整の両面から農地を
守る方法を学んだ。



有害鳥獣対策に係る各種団体の構成員とその役割



鳥獣害対策

①集落環境管理

農地や人家に近い山際の雑草地等の草刈り、除伐を行う。

鳥獣が侵入しにくい環境を作る。

かるさる
大作戦



(山崎地区)

②侵入防止対策



●簡易電気柵

農地周辺に3段から5段の電柵線を張り巡らせる。集落全部で実施することで、1筆単位ではなく、農地を面的に守ることが可能となった。

写真は漏電対策として周辺の草刈りを行っている状況。



●耐雪型侵入防止柵

電気柵の維持管理軽減に大きな効果が！

- ・支柱、電柵線の取り外し不要
- ・草刈り回数の減少
- ・降雪期におけるイノシシ等の侵入も防御

朝日町電気柵維持管理協力金制度について

2009.10.31 北日本新聞

電気柵 維持管理が大事



朝日町は面積の8割以上を山林が占め、山沿いの地区を中心に有害鳥獣対策に力を入れてきた。クマが相次いで出没した平成18年組織していた町有害鳥獣対策協議会は昨年末、中心部や平野部の自治振興会長も委員に委嘱できるように規約を改正。町内全域で対策に当たる体制づくりを進めた。

町は銃やわなによる捕獲と合わせ、ことしから電気柵の設置に着手し、第1弾として9月に笹川地区で延長約2・5キロにわたって設置した。山崎地区では10月から11月下旬にかけて山沿いの約8キロにわたって整備する。設置初日の10月18日は住民約50人が参加。草を刈って緩衝帯を設けた後、高さ約1メートルのグラスファイバー製の柵を3メートル間隔で立て、3本の電線を張り巡らせた。

町産業部によると、電気柵設置後は、見回りや周辺の草刈り、柵の補修が必要で、他県では補助金で設置しても維持できずに数年で廃棄されるケースがあるという。町は山崎地区自治振興会に管理面での協力を要請。自治振興会は山沿いだけでなく平野部の世帯を含む全約430世帯から1戸当たり月100円を集め、地区ぐるみで電気柵を維持管理していくことを決めた。

蓬沢会長は「県外視察などを通じて維持管理の大切さを訴え、ようやく各町内から負担への賛同を得ることができた。力を合わせて管理していきたい」と話す。

町は電気柵を宮崎、境地区でも順次設置する方針で、町産業部は「自主防衛の手段として電気柵は有効。継続的な事業になるよう、山沿いだけでなく町内の各地区に協力を求めている」としている。

11月18日、朝日町山崎
住民
(朝日・入部支局長 勝田孝成)

朝日・山崎地区 平野部含む全戸協力

クマやインシシなどの山里への出没を防ぐため、電気柵設置が始まった朝日町山崎地区は来年1月から、維持管理費として地区内の全世帯から月100円ずつ集める。電気柵は設置後の管理が課題となっており、同地区自治振興会(蓬沢正二会長)が町の協力要請に応えた。蓬沢会長は「継続的な対策となるよう、山すそだけでなく平野部の住民も巻き込んで成果を上げたい」としている。

スクランブル

クマ対策に100円基金

町産業部によると、電気柵設置後は、見回りや周辺の草刈り、柵の補修が必要で、他県では補助金で設置しても維持できずに数年で廃棄されるケースがあるという。町は山崎地区自治振興会に管理面での協力を要請。自治振興会は山沿いだけでなく平野部の世帯を含む全約430世帯から1戸当たり月100円を集め、地区ぐるみで電気柵を維持管理していくことを決めた。

山崎地区有害鳥獣対策協議会が平成22年度に山崎地区内を対象として1戸当たり100円の基金（協力金）を徴収

電気柵維持管理協力金制度

500円/戸/年基金造成

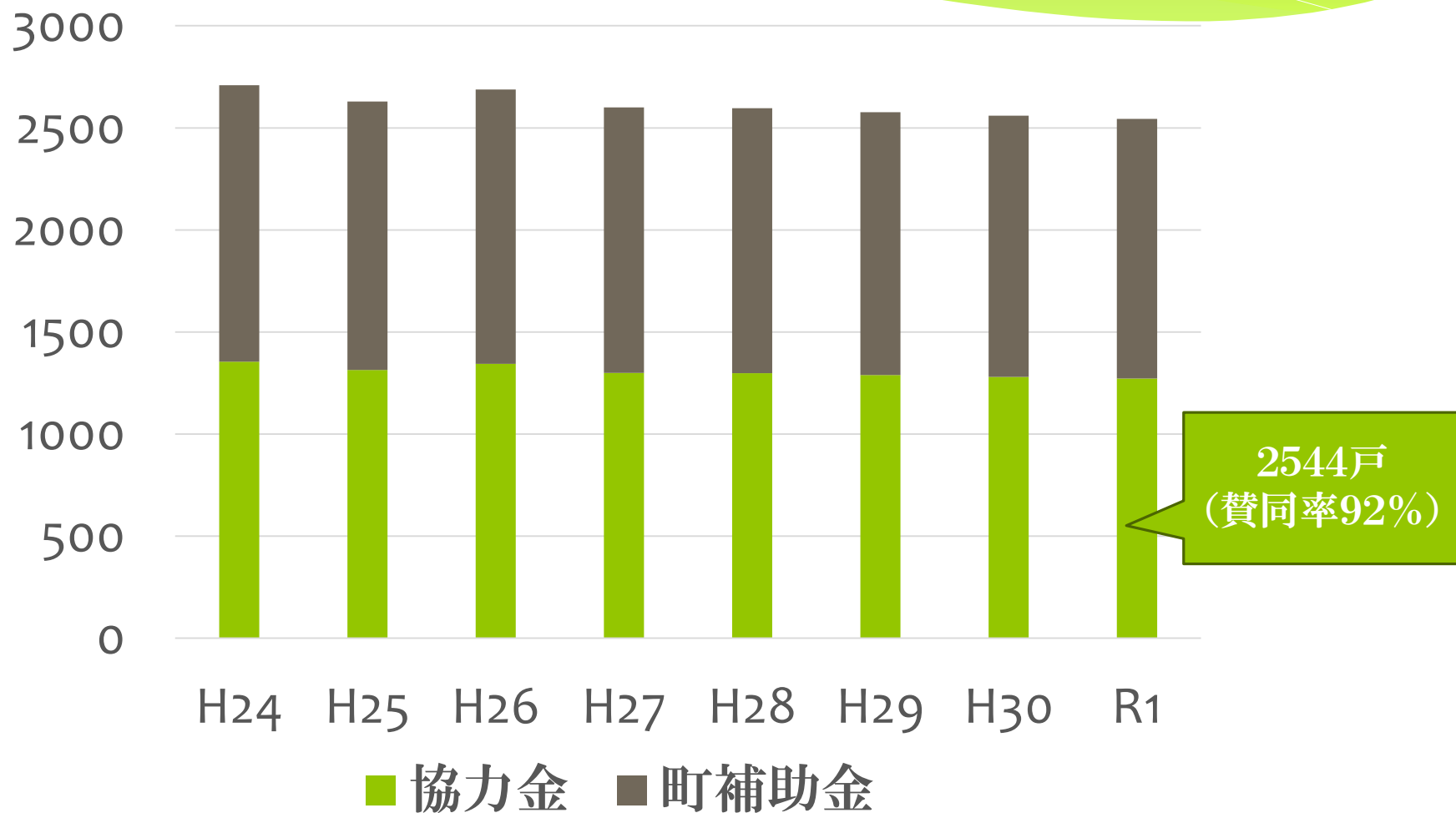
泊二区・泊三区
五箇庄・大家庄

＋朝日町
(基金同額)

境	1.300m
宮崎	3.000m
笹川	6.000m
泊	3.600m
南保	8.672m
山崎	7.463m
総計	30,035m

R1実績
基金:1,272千円(2544戸)
町補助:1,272千円
計2,544千円

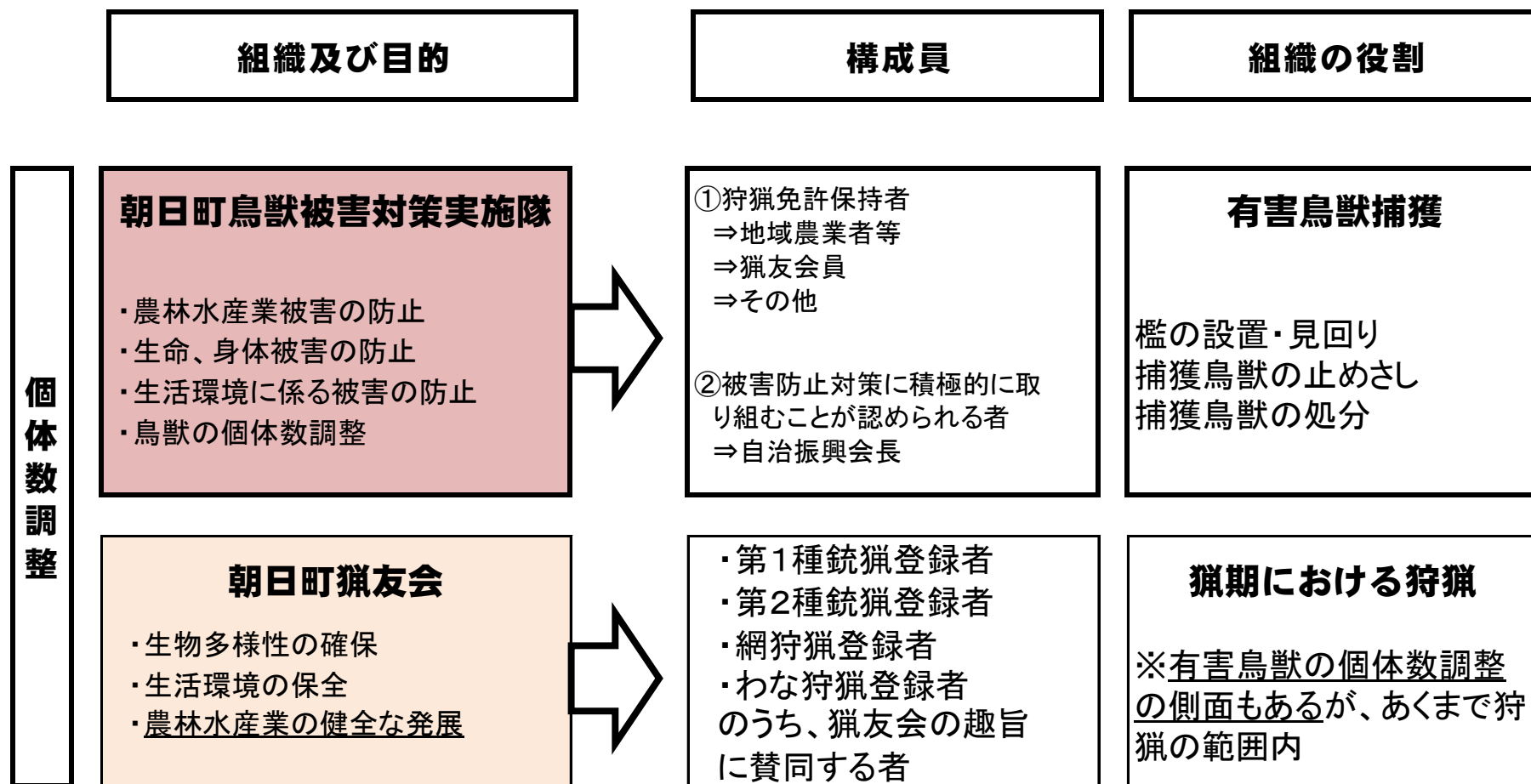
電気柵維持管理協力金徴収実績



③捕獲対策



有害鳥獣対策に係る各種団体の構成員とその役割

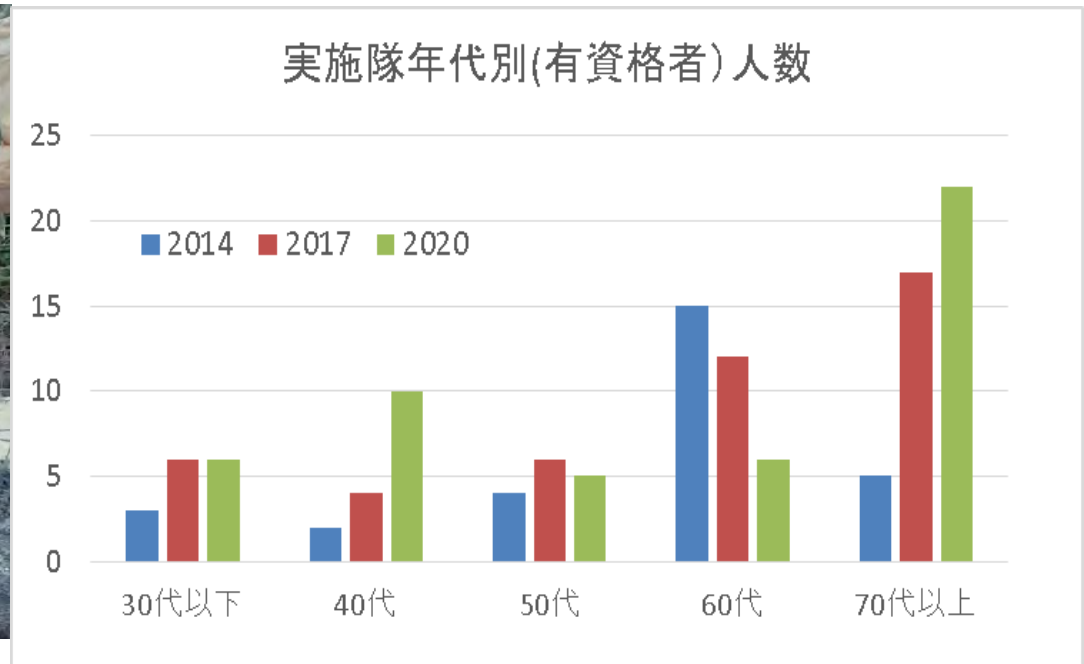


朝日町の有害鳥獣捕獲体制

項目	内容
実施隊員数	令和 2 年度49名(わな免許及び第一種・二種免許所有者)
班体制	3 班（笹川班、南保班、山崎班）
班員の人員	1 班あたりおよそ16名程度
班員の構成	各班、第 1 種 4 名、わな免許12名程度
捕獲檻の数	大型獣用箱わな45基、中型獣用箱わな14基、カラス檻 1 基
エサ	米ぬか等（イノシシは米ぬかのみ）
エサの調達先	檻の管理者が調達する
見回り方法	各自で責任を持って行う

後継者育成

ベテランとのセット活動で
捕獲現場でのマンツーマン指導

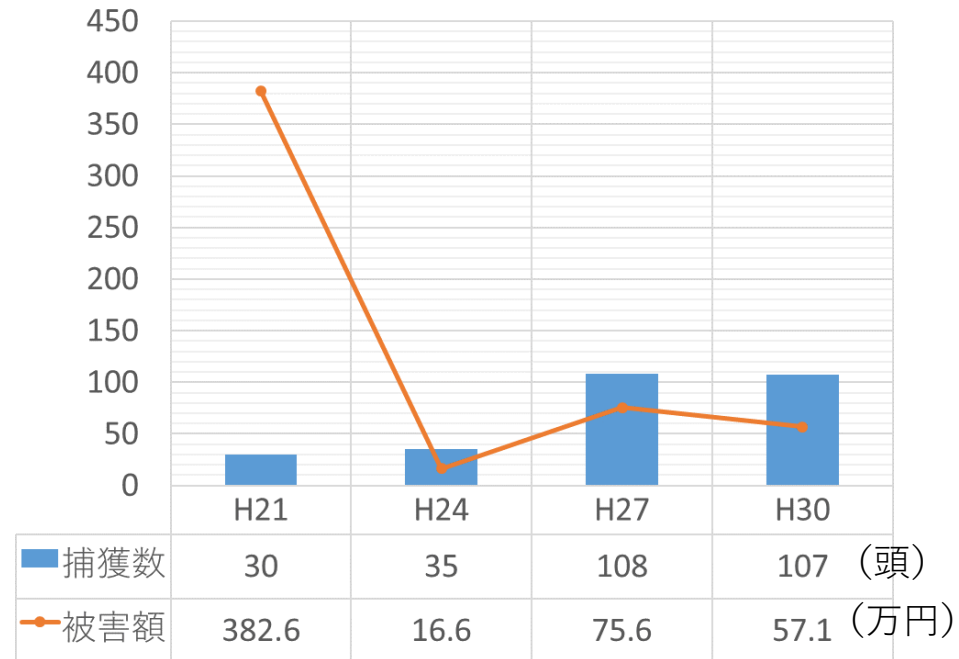


活動の成果

地域住民による柵の維持管理活動



イノシシの捕獲数と被害額



平野部へのクマ、イノシシの出没もあったことから、鳥獣対策は山沿いの集落だけの問題ではないという意識が高まり、協力金制度に概ね全戸が賛同して、侵入防止柵の維持管理を町全体で賄う体制が確立し、鳥獣被害防止活動に地域住民が主体的に取り組み、鳥獣に強い安心な町づくりの定着が進みました。山沿いに侵入防止柵を設置したことにより、加害個体を箱わなに誘導し効率的な捕獲も進みました。

これからの課題

◎有害鳥獣対策協議会

- ①電気柵（耐雪型侵入防止柵含む）の設置
- ②電気柵（耐雪型侵入防止柵含む）の維持管理
- ③河川、林道などにおける侵入防止対策
- ④鳥獣の生息環境管理（里山再生整備の継続）
- ⑤鳥獣害対策の住民への啓蒙普及

◎鳥獣被害対策実施隊

- ①捕獲技術の継承と向上
- ②実施隊員の確保と人材育成



ごし

した



あさひ舟川「春の四重奏」